

報告

二〇一六年度大会の概況

日本思想史学会二〇一六年度大会は、十月二十九日（土）・三十日（日）の両日、関西大学千里山キャンパスを会場として開催された。

第一日目は「思想史のなかの雑誌メディア」をテーマにシンポジウムが開催された。

報告

近代思想史研究における〈雑誌〉メディア

—雑誌記者・三宅雪嶺を中心として—

（筑波大学）中野目 徹

〈メディア人間〉の集合的無思想に挑む雑誌研究

（京都大学）佐藤 卓己

コメント

（首都大学東京）河野 有理

司 会

（東京大学）荻部 直

シンポジウム終了後に総会が行われ、評議員より二〇一五年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて二〇一六年度事業計画および予算案が提出さ

れ、それぞれ評議員案通り決定された。また、会長から第十回日本思想史学会奨励賞の発表と授与が行われた。受賞業績は次の作品である。

鈴木啓孝『原敬と陸羯南——明治青年の思想形成と日本ナショナリズム——』
引き続き、以文館1階食堂にて懇親会が開催された。

第二日目のパネルセッション・研究発表の発表者と発表題目は以下の通りである。

〈第一部会〉

パネルセッション

1、近世日本における出版文化の諸相

（茨城大学）伊藤 聡

（千葉大学）引野 亨輔

（東北大学）吉川 裕

（金城学院大学）桐原 健真

2、「近世化」する日本社会の中の宗教

（東北大学）曾根原 理

(池坊短期大学) 松本 公一

(駒沢女子大学) ジョン・モリス

(関西大学) 大島 薫

3、「近世神話」の射程と可能性―「神話」概念の拡大―

(早稲田大学) 鈴木 英之

(佛教大学) 斎藤 英喜

(北海道大学) 金沢 英之

(金沢学院大学) 山下 久夫

〈第二部会〉

研究発表(中世・近世)

1、中近世の〈女国〉表象―日本とロシアの地図を資料

にして― (東北大学) ポロヴニコヴァ・エレーナ

2、院政期の「天台本覚思想」について

(学習院大学) 島田健太郎

3、親鸞―その名のりに掛けられた意義―

(東北大学大学院) 梅原 博

4、江戸前期における日本儒学史叙述の形成過程

(早稲田大学) 森 新之介

5、「古典」としての剣術

(上武大学) 花田 哲郎

6、山鹿素行思想における『孟子』受容について―文献

的視点から― (北京外国語大学日本学研究中心) 張 曉明

7、平戸山鹿家旧蔵「山鹿文庫」の内容とその課題

(蘭州大学) 中嶋 英介

8、伊藤仁斎の学問構造―「意味血脈論」の再検討を通

じて― (東北大学大学院) 宣 芝秀

9、松江藩儒桃白鹿の『大学』解釈

(大阪大学) 宇野田尚哉

10、佐久間象山の君臣観 (九州大学大学院) 韓 淑婷

〈第三部会〉

研究発表(近代)

11、明治初年の西本願寺学林における国学講義

(龍谷大学) 小林 健太

12、『大政紀要』の思想史像

(フートラム女学院中学高等学校) 池田 智文

13、明治期人類学・考古学における「先史」認識の展開

(東北大学) 佐々木隼相

14、時事新報社説問題の最終的解決―『福沢論吉全集』

改訂の試み― (静岡県立大学) 平山 洋

15、服部宇之吉における「孔子教」論の確立について

(東京大学大学院) 水野 博太

16、明治前期「宗教」論の再検討―宗教メディアという

場に即して― (國學院大学) 星野 靖二

17、政治実践としての心身修養―木下尚江を中心として―

18、日本型能率論勃興期における思想的文脈
(日本学術振興会) 栗田 英彦

19、民芸論の有用性について―一九三〇年の柳宗悦による帝展批判記事を中心に―
(名古屋大学) 川合 大輔

20、戦前の神社界における笈克彦の立ち位置
(岡山大学大学院) 後藤 智絵

21、青木正児の中国民俗学研究について
(総合研究大学院大学大学院) 西田 彰一

22、もうひとつのアジア―竹内好における朝鮮像―
(関西大学大学院) 辜 承堯

(愛知県立大学) 水谷 仁